



# いろいろな貝、さまざまな生き方 - 貝殻の標本つくり -



個人出展

奈良県立奈良高等学校 米田 敬司

## ●どんな観察実験なの？

南の海にはいろいろな種類の貝がすみ、砂浜にはきれいな貝殻がいっぱい打ち上げられています。独特な形、様々な色合い、不思議な模様。そのひとつひとつが名前を知るヒントになります。気に入った貝殻を選んで、図鑑で名前を調べてみましょう。手に取って、絵合わせをして、楽しみながら名前を調べることができます。名前が分かると、その貝のいろんなことが調べられます。身を守るためには、殻があります。では、いったい何を食べ、どんな生き方をしているのでしょうか？ ケースに整理して、ラベルを添えると、標本のできあがりです。すてきな置物になりますよ。豊かな自然に生きる貝類の多様性を感じてみませんか。

## ●観察のしかたとコツ

### 【用意するもの】

サクラガイなどの貝殻、タカラガイの種類、イモガイ科の貝殻、ハマグリの種類、タマガイ科の貝殻など、図鑑

### 【観察のしかた】

(1) 貝の種類は大きく巻き貝と二枚貝に分けられます。

どのような特徴で見分けられるか観察しましょう。

(2) いろいろな種類の貝が入ったトレイから、自分の気に入ったものを6つ選びましょう。

(3) 図鑑を参考に形・色・模様などを見比べて、その貝の名前を探しましょう。

- ・サクラガイの仲間は薄い二枚貝で、ピンク色の種類が多いです。すじ(成長線)のある種類もあります。
- ・タカラガイ科の貝殻は、樽型に巻いた中央に歯のある殻口が開いています。色や形から、識別します。
- ・イモガイの仲間は細い円錐形の巻き貝で、斑点や縞模様が見分けるポイントになります。
- ・ハマグリやアサリの仲間はマルスダレガイ科に分けられています。だ円形の二枚貝で、もようが現れています。
- ・タマガイ科は、他の貝に穴をあけて食べる種類です。殻底のへその部分に特徴があります。
- ・ムシロガイ科の貝殻は、小さく、薄い、角型の巻き貝です。縦横にややたたみのような模様のある種類もあります。

(4) それぞれの貝は、何を食べているのでしょうか。貝殻の形に、何か関係があるかもしれません。

(5) ラベルに科名と種名を記入して、図1のように貝殻を標本ケースに整理します。いろいろな種類の生物が共存していること(生物多様性)に気づけましたか。できあがった標本は、持ち帰ることが出来ます。名前を覚えて、今度は海で出会えるといいですね。

## ●気をつけよう

終了後は、手をよく洗きましょう。

## ●もっとくわしく知るために

以下の本により詳しい解説があります。

- ・奥谷喬司著:「フィールドベスト図鑑 日本の貝1・2」学研(2006)



図1 標本例(当日は6種)、右下はニッコウガイ



図2 多様な貝の種類